

経営比較分析表

佐賀県 伊万里市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	69.64	93.70	4,350

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
56,934	255.28	223.03
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
53,009	88.15	601.35

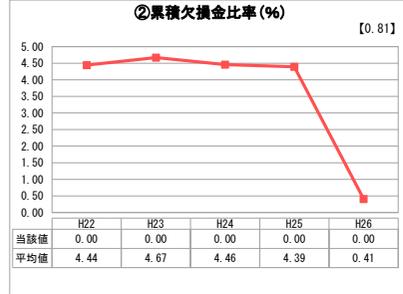
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

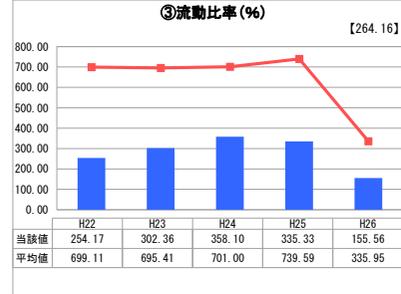
1. 経営の健全性・効率性



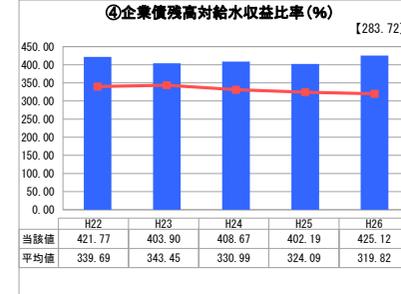
「経常損益」



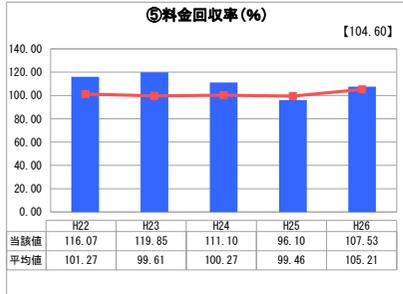
「累積欠損」



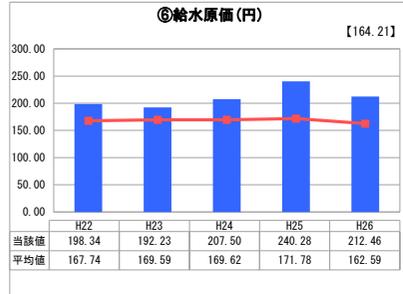
「支払能力」



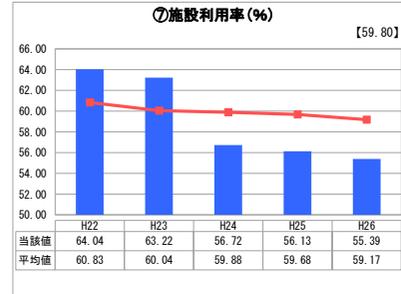
「債務残高」



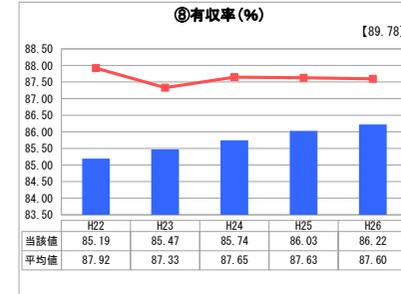
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

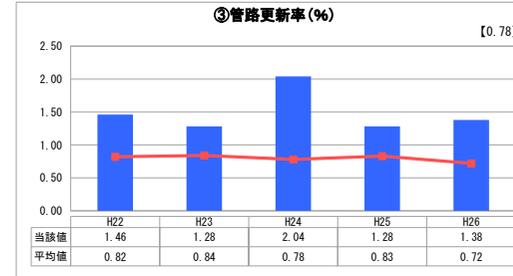
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

平成16年度から平成24年度まで大規模な拡張事業等を行ったことにより、健全性の指標である「経常収支比率」と「料金回収率」が低下傾向にあるが、ほぼ平均値並みでいずれも基準である100%を上回っているため、健全性は保たれていると考える。

また、効率性の指標である「有収率」と「施設利用率」がともに平均値を下回っている。老朽化した管路を更新して、漏水対策を行っているため「有収率」は年々改善しているが、「施設利用率」は配水量の減少に伴い低下しているため、施設の統廃合等を検討する必要がある。

2. 老朽化の状況について

「有形固定資産減価償却率」は平均値を下回っており、水道施設全体に必要な更新を行っていることを表している。

また、「管路経年率」と「管路更新率」がともに平均値を上回っている。これは、老朽化した管路が多いため「管路経年率」が高くなっているが、「管路更新率」の高さから計画的な更新を行っていることを表している。

全体総括

現状では、経営の健全性・効率性が保たれており、老朽化への対応はおおむねできているが、今後、給水人口の減少に伴う給水収益の減少や、老朽化した施設の増加に伴う大規模更新により、経営が圧迫されると考える。

安全・安心で良質な水道水を供給するため、費用の削減に努めるとともに、アセットマネジメントを実施して、施設の統廃合を含め、中長期的視点に立った更新計画を策定する必要がある。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。